

新病院建設 計画

市民のいのちを守る市立病院を！

～市政懇談会、市民の声続々と～

民報

おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢字久田 62
Tel 24-2021
Fax 24-2049



～市政懇談会～
会場…江刺支所

1月18日から「地域医療奥州市モデルの機能と新病院の役割について」をテーマに市政懇談会が行われています。18、20日は水沢地区センターで各日90名ほどの参加。23日は江刺支所で開催され70名ほどの参加でした。市民のみなさんの声をご紹介します。

市内医療施設間の機能分化、連携強化を… 市当局

まず初めに計画について担当者が説明しました。

●市立医療施設、県立病院、民間施設の機能分化と連携を強化する。

●感染症対策、リハビリなどの回復病床に力を入れる。
●周産期・子育てサポート、まちづくりの拠点として
●いろんな世代が集える新病院に。

などの方向性を示し、新病院の建設候補地や病床数についても説明しました。

質疑応答では、市民のみなさんからたくさんの意見が出されました。

「新病院に期待している」「産婦人科がほしい」「魅力あふれるまちづくりに期待。もつと若い世代に託してほしい」という計画に賛同する意見が大半を占める中、反対する意見も見受けられました。

人口減少、医師不足… 新病院建設は無意味？

奥州医師会に所属している2人の医師が反対意見を表明。「これまで市立5医療施設を統合するよう提言してきた。人口減少や医師確保が難しい中で5つの医療施設を存続させるのは無理がある」「莫大な税金を使って新病院を建設し、赤字を増やすだけ。一市民としてそのような計画に税金を負担したくない。」など、消極的な意見もありました。

計画は 決定したものではない

市当局は、人口減少も見据えつつ、高齢者が増え、リハビリや介護の需要が増えることから回復期病床を50床設けること。医師確保についても医師奨励学生の数を提示しながらしっかりと行っていくことと説明しました。

市長は、「この計画はまだ決定したものではない。市民の声を聞きながら作っていくものだ」と話しました。

日本共産党 議員団

消防本部を訪問 救急体制について懇談



岩手県議会議員
千田みつ子

1月13日、東北大学災害科学国際研究所の准教授である柴山明寛氏を講師に「人口減少・過疎化が進む中の防災の課題とは」についての講演をお聞きしました。柴山先生は、県内でも陸前高田市の津波伝承館や大槌町の『おしゃやち』、大船渡市の防災学習館などの整備でもご尽力いただいた方です。

少子高齢化による避難支援者の減少は、支援の限界へ。高齢化による避難行動要支援者の増

加は、逃げ遅れや避難の断念などにより、直接死の増加につながるのと。避難行動要支援者の個別避難計画の早期策定が求められます。



facebookより

コロナ感染が拡大する中で、法制上コロナ患者を搬送することはできないが、保健所と連携しながら「移送」という形で対応しているのと。奥州・金ヶ崎管内で救急車は8台配備しているが、1台コロナで使用するれば、消毒しなければならぬため、すぐに使うことができない状態になる、とのこと。

日本共産党市議団は、これらの問題について、2月3日に開催される奥州金ヶ崎行政事務組合定例会の一般質問で取り上げる予定です。